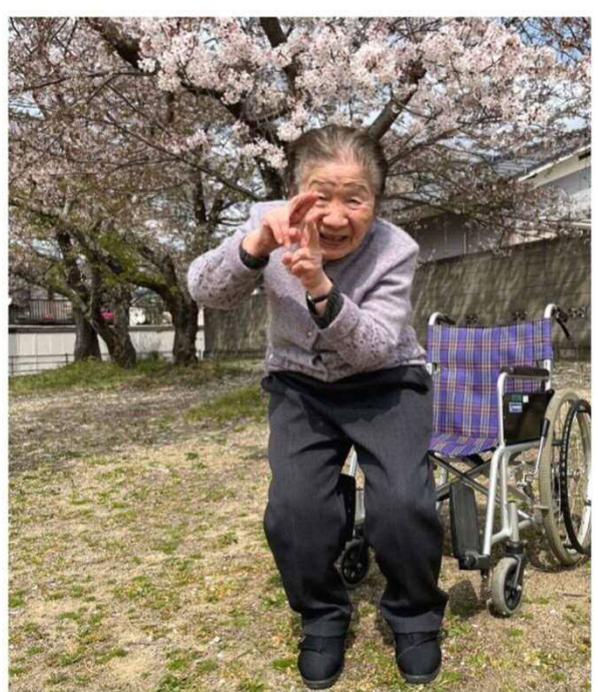


## 2022（令和4）年度 事業報告



## I 特筆事項

2022(令和4)年度は、新型コロナウイルスの脅威が直撃した年だった。6月にグループホーム溝辺ともの家で感染が確認され、そこから収束することなく9月にはクラスターが発生した。他の事業所から泊まり込みの応援もあり、なんとかサービスを継続できたが、本当に苦しい期間だった。また、年末には小規模多機能ホームともの家で大規模なクラスターが発生した。こちらも職員の泊まり込みや連勤で何とか乗り切ることができたが、アンジュールともの家高齢者住宅にも感染が拡大し、調理室も休止に追い込まれるなど、法人全体に影響が及んだ。

令和5年5月からは、新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の5類相当に引き下げられたが、コロナ禍での学びは貴重であり、そこで得たものを今後に生かしていかなければならない。2度のクラスターを経験してわかったが、認知症高齢者が多く暮らす事業所で感染症の蔓延を防ぐことは現実的ではない。認知症高齢者の多くはマスク着用など標準予防策の徹底が困難だからである。したがって、いかに重症化を防ぐかが重要となってくる。そのためには、利用者が健康であることが一番である。食事と水分、睡眠と運動。人間が健康であるために必要なこれらの生活要素は、令和3年度の「科学的介護研修」で学んだ内容と直結しているし、ともの家が設立当初より大切にしている内容である。今後も日々の介護現場で、一層充実させることが大切である。

我々、医療・介護業界に生きる者の多くは、これまで、感染を避けることをなによりも優先してきたが、今回の5類引き下げを契機に、その考えから脱却しなければならない。感染を避けることは大切ではあるが、それ以外を犠牲にするほど大切なことではない。どこにも出かけず誰にも会わず、そのような生活がもたらした「安全な生活」は、決して「健全な生活」だったとは思えないのである。これからは、生活をどれだけ豊かにしていくか…令和5年度は、ともの家の真価が問われる1年になるであろう。現場の管理者たちには、そのことを肝に銘じてサービス提供にあたってほしいと願っている。

さて、現場運営という面では、コロナ禍に苦しんだ1年であったが、経営状況については、かつてないほど順調であった。詳細は後述するが、小規模多機能ホームともの家の業績が過去最高となったことに加え、4月に開始したばかりの訪問看護ステーションともの家が短期間で軌道に乗ったことが好調の要因である。この2事業所は、令和4年度に理事会で決定した基本戦略で重点事業所に設定した事業所である。十分な結果が出せたことに安堵しつつも、今は本当に介護業界にとって困難な時代であることを忘れず、理事会における経営判断が、業績を左右するという自覚をもち、法人の益々の発展を目指して頑張っていきたい。過去最高の経営状況をもって1年を締めくることができたことについて、新規部門、新規担当として尽力してくれた職員たち、そしてそれを支えた周囲の職員たちに多大なる感謝の意を示したい。

以下に、2022(令和4)年度の事業概要を報告する。

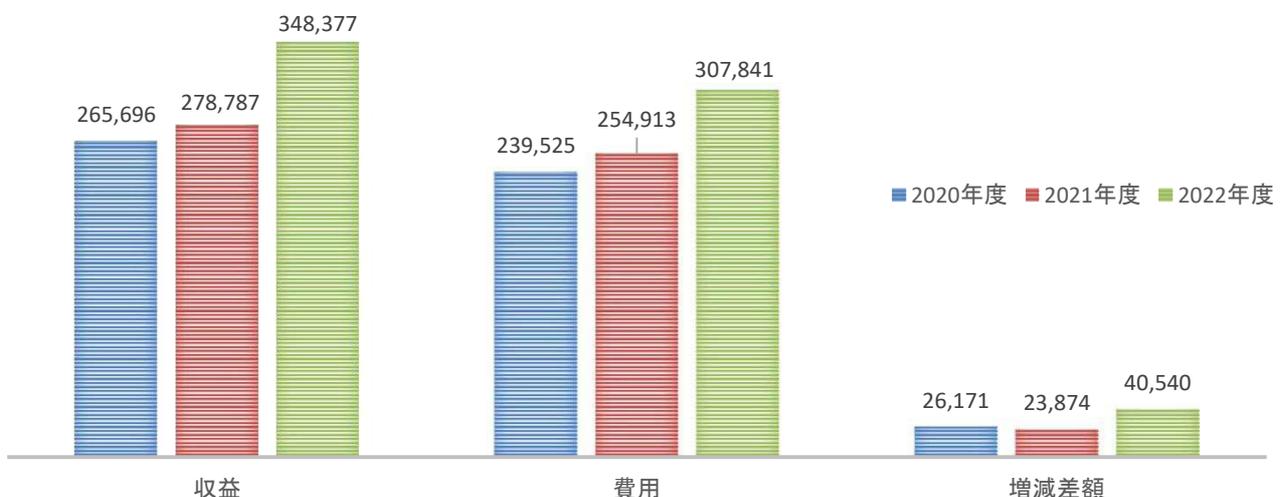
## II 経営状況

### 法人全体

#### 1) 当期事業活動収益について

法人全体の当期の会計は、グラフ①および表①のとおりとなった。前述のとおり、小規模多機能ホームの大幅な増収および訪問看護事業の好調に加え、新型コロナ関連の補助金収入も多かったため全体で増収、大幅な増益となった。

【グラフ① 直近3年間の当期活動収益・費用・増減差額の推移(単位:千円)】



【表① 当期活動収益・費用・増減差額】

当期活動収益計	当期活動費用計	当期活動増減活動差額計
348,381,544円	307,841,508円	40,540,036円

## 2) 当期資金収支について

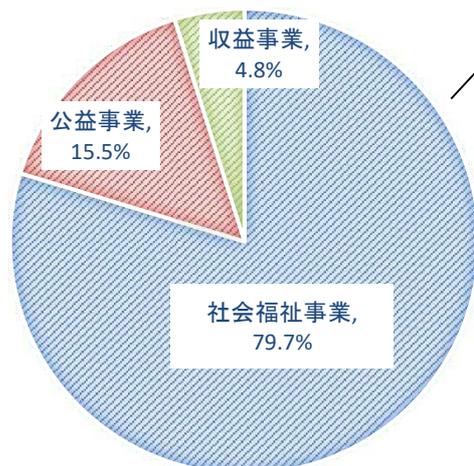
資金収支は表①のとおりで、当期資金収支差額は約3,148万円で、当期末資金収支残高は約2億2,363万円となった。

【表② 当期資金収支表(単位:千円)】

事業活動収入	施設整備等収入	その他の活動収入	収入計①	資金収支差額(①-②)
341,054,404	4,950,000	1,496,934	347,501,338	31,482,821
事業活動支出	施設整備等支出	その他の活動支出	支出計②	当期末支払資金残高
287,974,067	24,603,090	3,441,360	316,018,517	223,633,645

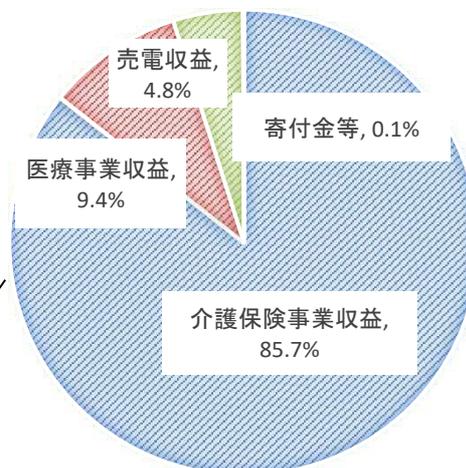
## 3) サービス活動収益の構成について

【グラフ② 収益に対する事業区分別の構成比率】



法人全体の収益に対する事業区分別の構成はグラフ②のとおりとなった。訪問看護が公益事業に加わった結果、前期比で9割を占めていた社会福祉事業が8割近くなり、公益事業の割合が増加した。

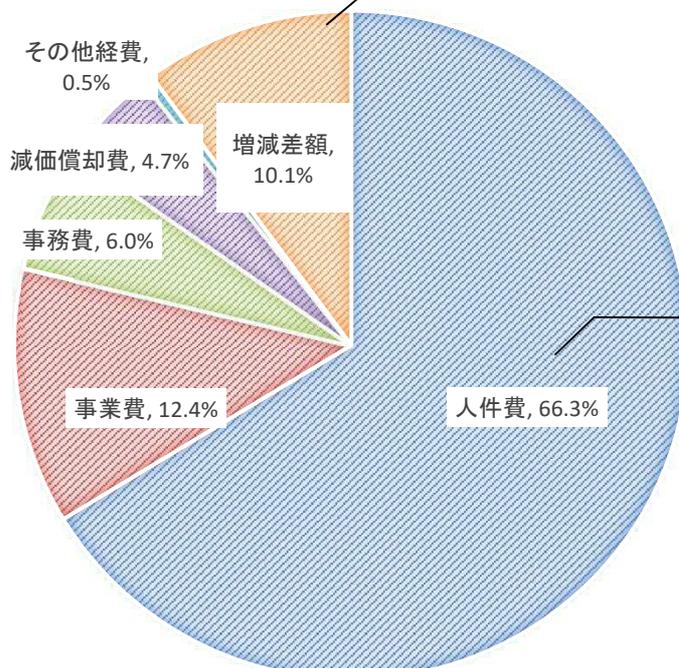
【グラフ③ 収益に対する科目別の構成比率】



科目別の構成比率はグラフ③のとおりとなった。介護保険事業は上限近い値なので、医療事業収益の割合が今後さらに増加していくことが望ましい。

## 4) サービス活動における経営指数値について

【グラフ④ 収益に対する構成比率】



収支差率(収益に対する増減差額の比率)は、10.1%となった。令和4年度介護事業経営概況調査の結果によると、令和3年度決算における全サービス平均の収支差率は3.0%となっているので、安定運営ができていると言える。

(参考値) 税引き後収支差率(コロナ補助金含)  
認知症対応型共同生活介護4.6%  
小規模多機能型居宅介護4.5%

科目別の構成比率はグラフ④のとおりとなった。令和4年度介護事業経営概況調査の結果と比較すると、概ね平均的な数値である。安定運営のためには、人件費のコントロールが生命線となるが、人手不足が追い打ちをかけ、賃金水準が高騰している。上がり続ける人件費に対して、どれだけ収益確保できるかが今後の課題である。

(参考値) 税引き後収支差率(コロナ補助金含)  
認知症対応型共同生活介護63.7%  
小規模多機能型居宅介護67.6%  
訪問看護 73.9%

- 1) 法人全体の8割近くの規模を占める社会福祉事業(溝辺ともの家、アンジュールともの家、ともの家この道のグループホーム3事業所と、小規模多機能ホームともの家、小規模多機能ともの家吾も紅の小規模多機能居宅介護2事業所)の当年度の経常活動の会計は表③のとおりである。前期比で見ると増収増益である。

【表③ 社会福祉事業 損益比較表 (単位:千円)】

		溝辺	この道	アンジュール	小規模	吾も紅	合計
経常活動 収益	当期	31,850	44,931	46,475	86,297	62,122	271,675
	前期	29,216	44,094	44,521	68,252	56,664	242,747
	対比	2,634	837	1,954	18,045	5,458	28,928
経常活動 費用	当期	28,906	40,171	44,661	71,738	54,311	239,787
	前期	30,700	40,015	40,660	59,220	45,920	216,515
	対比	△ 1,794	156	4,001	12,518	8,391	23,272
経常活動 増減差額	当期	2,944	4,760	1,814	14,559	7,811	31,888
	前期	△ 1,484	4,079	3,861	9,032	10,744	26,232
	対比	4,428	681	△ 2,047	5,527	△ 2,933	5,656

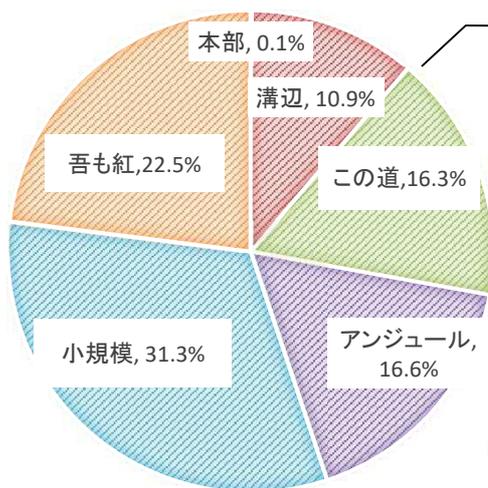
- 2) 資金収支は表④のとおりとなった。収入は約2億7,795万円で、支出は約2億6,017万円で、当期資金収支差額は約1,777万円で、次期繰越金(家計の貯蓄に相当)にあたる当期末残高は約1億8,951万円である。

【表④ 社会福祉事業 当期資金収支表(単位:千円)】

事業活動収入	施設整備等収入	その他の活動収入	収入計①	資金収支差額(①-②)
271,963,306	4,950,000	1,037,482	277,950,788	17,777,133
事業活動支出	施設整備等支出	その他の活動支出	支出計②	当期末支払資金残高
248,452,886	11,021,749	699,020	260,173,655	189,515,663

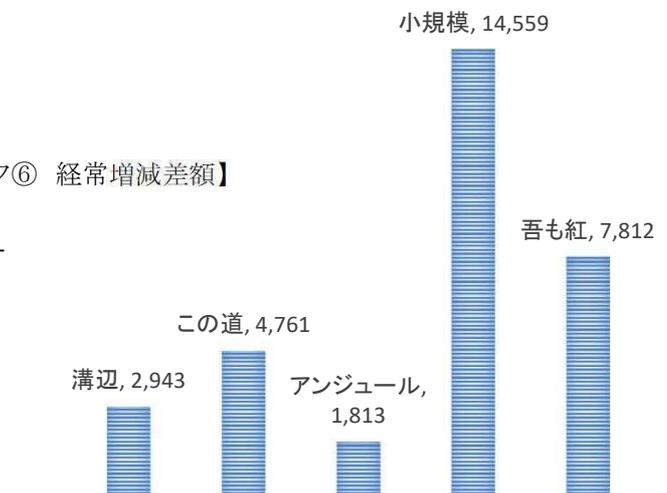
- 3) 社会福祉事業の収益等の構成について

【グラフ⑤ 経常活動収益の事業所別構成比率】



社会福祉事業の経常活動収益の構成はグラフ⑤のようになり、小規模多機能部門2事業所で5割以上を占めている。地域連携担当が、病院連携室、包括支援センター、居宅介護事業所との連携強化に成功し、登録率、利用率が大幅に改善した。

【グラフ⑥ 経常増減差額】



5事業所の経常増減差額については、グラフ⑤のようになった。小規模多機能部門の収益率が突出している。グループホーム部門での収益は、収支構造的に、ほぼ限界値となっているので、増益は見込めない。安定運営のためには、小規模多機能部門の現状維持が必要である。

【表⑤ 公益事業 損益比較表 (単位:千円)】

		パレット	高齢者住宅	第二	訪問看護	合計
1) シニア住宅パレット(10室)と高齢者住宅(4室)、第2とも の家(5室)、訪問看護の当年度 の経常活動の会計は、表⑤の とおりとなった。訪問看護が 追加され、収益的にはかなり 強化された。経常増減差額 だけを見ると、全サービス 部門中、小規模多機能ホーム ともの家に次ぐ業績となっている。	経常活動収益	当期 13,426	2,717	3,332	33,640	53,115
		前期 13,852	2,118	2,974		18,944
		対比 △ 426	599	358	33,640	34,171
	経常活動費用	当期 10,052	2,124	3,955	22,945	39,076
		前期 9,702	2,083	4,219		16,004
		対比 350	41	△ 264	22,945	23,072
	経常増減差額	当期 3,374	593	△ 623	10,695	14,039
		前期 4,150	35	△ 1,245		2,940
		対比 △ 776	558	622	10,695	11,099

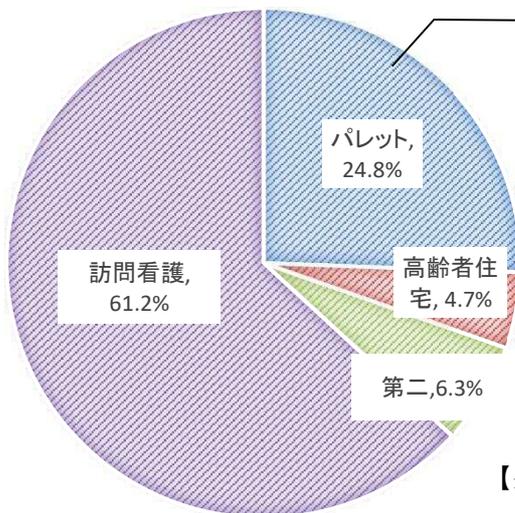
2) 資金収支は表⑥のとおりとなった。収入は約5,923万円で、支出は約4,710万円で、当期資金収支差額は約1,212万円で、次期繰越金(家計の貯蓄に相当)にあたる当期末残高は約2,328万円である。

【表⑥ 公益事業 当期資金収支表(単位:千円)】

事業活動収入	施設整備等収入	その他の活動収入	収入計①	資金収支差額(①-②)
53,113,978	0	6,118,607	59,232,585	12,124,288
事業活動支出	施設整備等支出	その他の活動支出	支出計②	当期末支払資金残高
34,949,092	5,757,710	6,401,495	47,108,297	23,288,082

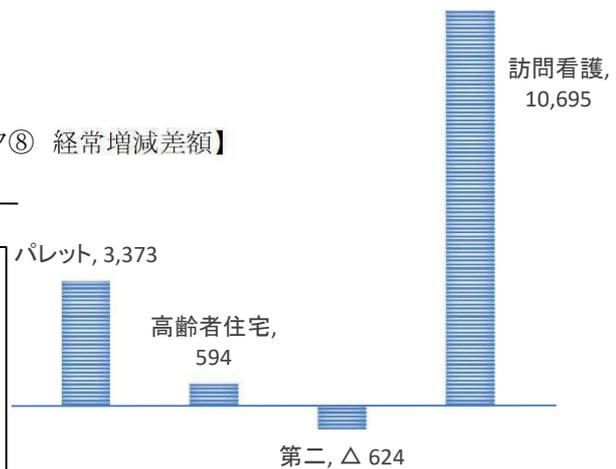
3) 公益事業の収益等の構成について

【グラフ⑦ 経常活動収益の事業所別構成比率】



公益事業の経常活動収益の構成はグラフ⑦のようになり、訪問看護が6割以上を占めている。グループホーム部門や小規模多機能部門との連携だけでなく、在宅利用者からの依頼も徐々に増加し軌道に乗ったことが大きい。これまでの公益事業は、収益性が低かったが、訪問看護事業の開設により大幅に改善している。既存の住宅系事業との相性もよく、健康管理や夜間の緊急時対応に大いに貢献している。来期は更なる拡大を目指していきたい。

【グラフ⑧ 経常増減差額】



4事業所の経常増減差額については、グラフ⑧のようになった。訪問看護部門の収益率が突出している。規模の関係で、高齢者住宅と第二とものは、単独での黒字確保は難しい。パレットは人件費をはじめ、各種経費を抑えて黒字を確保できているが、今後、職員配置を増やすなど人件費の増加は難しい状況である。事業継続のためには、訪問看護等、他サービスの間接収益の確保が必須である。

## 収益事業会計

【表⑦ 収益事業 損益比較表 (単位:千円)】

- 1) 太陽光発電事業の当年度の経常活動の会計表⑦のとおりであった。設備の故障などもなく、安定した稼働だったので、全体としては、前期対比で増収増益となった。

		パレット	鷹子	この道	アンジュール	合計
経常活動収益	当期	1,077	11,642	1,162	2,096	15,977
	前期	1,407	10,855	1,010	2,048	15,320
	対比	△ 330	787	152	48	657
経常活動費用	当期	217	3,902	272	272	4,663
	前期	234	3,748	293	293	4,568
	対比	△ 17	154	△ 21	△ 21	95
経常増減差額	当期	860	7,740	890	1,824	11,314
	前期	1,173	7,107	717	1,755	10,752
	対比	△ 313	633	173	69	562

- 2) 資金収支は表⑧のとおりとなった。収入は約1,597万円で、支出は約1,439万円で、当期資金収支差額は約158万円で、次期繰越金にあたる当期末残高は約1,082万円であった。

【表⑧ 収益事業 当期資金収支表(単位:千円)】

事業活動収入	施設整備等収入	その他の活動収入	収入計①	資金収支差額(①-②)
15,977,120	0	0	15,977,120	1,581,400
事業活動支出	施設整備等支出	その他の活動支出	支出計②	当期末支払資金残高
4,572,089	7,823,631	2,000,000	14,395,720	10,829,900

## Ⅲ 職員状況

- 1) 法人全体の年度末職員数と常勤換算数は、表⑨-1のとおりとなっている。

【表⑨-1 年度末職員数と常勤換算数】

	事務員	看護師	介護支援専門員	介護職員	調理員	その他職員	計
常勤	3	7	4	26	1	1	42
非常勤	1	5	0	13	2	5	26
常勤換算数	3.8	8	4	34.7	1.5	3	55

介護支援専門員は、介護職員との兼務も含む。その他の職員は、リハビリ職、相談員、清掃員。

以下、令和4年3月末時点での非常勤を含む職員68名の状況を報告する。

【表⑨-2 職員勤続年数と離職率】

- 2) 勤続年数

職員の勤続年数と離職率は、表⑨-2のようになっている。新規部門の開設に伴い、勤続1年未満の職員割合が増加した。勤続10年を超える職員も多いため、ともの家の理念の浸透をはじめ、職員育成が今後の課題である。

## 離職率

正規職員で7名の離職、非正規職員では3名の離職があった。全国平均よりも高い水準となった。ハラスメントに対する指導と対応の結果、退職に至ったケースもあり、職員への研修も強化した。

	勤続年数	人数	構成割合	構成割合
			令和4年度	令和3年度
勤続年数	～1年	18	33.3%	13.0%
	1～3年	9	16.7%	13.0%
	3～5年	11	20.4%	13.0%
	5～8年	9	16.7%	29.6%
	8～10年	7	13.0%	9.3%
	10年～	11	20.4%	22.2%
	離職率	正規/非正規		令和4年度
正規職員		16.6%	7.1%	
非正規職員		15.8%	0.0%	
令和2年度介護労働実態調査結果報告 正規職員(非正規職員)は、13.2%(18.5%)				

### 介護職員の保有資格状況

表⑨-3のとおりとなっている。介護労働安定センターの「令和2年度介護労働実態調査結果」による全国平均と比べると、当法人は有資格者が多いといえよう。

【表⑨-3 介護職員の保有資格状況】

資格	ともの家		全国
	令和4年度	令和3年度	令和2年度
介護福祉士	86.0%	85.3%	50.4%

### 給与等

当法人の介護労働者(正規職員)の1人当たり給与費は、表⑨-5のとおりとなった。比較値として、令和4年度介護事業経営概況調査のデータを載せている。全国平均と比較して、高水準を維持しているのがわかる。介護職員等ベースアップ等支援加算が創設され、一段と賃金水準の改善が進んでいるが、全産業平均と比較するとまだ格差があること、近年の物価高により家計がダメージを受けていること、この2つの観点から、今後も、積極的な賃金改善に努めていきたい。

【表⑨-5 2022(令和4)年度 介護・医療労働者平均賃金】  
(常勤換算職員 1人あたり給与費)※1

認知症対応型共同生活介護	
ともの家	全国平均
332,711円	310,658円

小規模多機能型居宅介護	
ともの家	全国平均
364,150円	317,927円

訪問看護	
ともの家	全国平均
444,287円	423,281円

※1 令和4年度介護事業経営概況調査結果より

1人あたり給与費・・・給与および年間賞与、法定福利費(事業所負担分)退職給与引当金、退職金を含む

## IV 各事業所利用状況(令和5年3月31日時点)

### 1) グループホーム利用状況

利用状況は、表⑩-1のようになった。看取りによる退去等もあったが全体的に入居率は横ばいだった。グループホームは需要が多く人気も高いため、比較的安定した入居率を実現できている。ともの家は業界平均に比べ給与水準が高いが、今後、介護業界全体として、ともの家の給与水準と同程度以上に賃上げが進んでいくことが予想される。そうしなければ労働力の確保ができなくなるからである。したがって、グループホームにおいては安定的に収益を上げていくことが重要で、そのためにも、いかに入居率を高く維持できるかが、運営上の課題となる。

【表⑩-1 グループホーム利用状況】

	溝辺		この道		アンジュール	
	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
延べ利用者数	2,137	2,157	3,175	3,249	3,226	3,120
1日当り利用者数	5.85	5.90	8.70	8.90	8.84	8.54
年間入居率	97.6	98.4	96.7	98.9	98.2	94.9
平均介護度	3.8	3.8	3.8	4.1	4.2	3.4

(参考)年間入居率の全国平均は94.3%

### 2) 小規模多機能利用状況

利用状況と登録率は、表⑩-3のようになった。実利用者平均が増加した。本部に地域連携の担当を置くことで、相談件数が増加したのが大きな要因である。入居施設であるグループホームへの中間施設として、その機能を生かすとともに、訪問看護等他の在宅サービスと連携しながら、在宅生活を支えていきたい。

【表⑩-3 小規模多機能利用状況】

	小規模多機能ホーム		ともの家吾も紅	
	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
通い延人数	5,496	4,770	4,252	4,141
宿泊延人数	2,666	2,627	2,109	2,117
訪問延人数	11,734	8,257	12,227	10,986
実人数月平均	25.2	21.8	17.7	17.5
平均介護度	2.4	2.3	2.2	2.1

(参考)実人数の全国平均は22.0

利用者の平均介護度はグループホームと比較してそれほど高くはないが、夜間の送迎や長時間の通いや訪問など、希望するサービスが多岐にわたる為、柔軟に対応できるマンパワーの確保と専門性の両立が重要である。

## 3) 訪問看護利用状況

利用状況は、表⑩-4のようになった。開設初年度としては、素晴らしい業績であった。前述の通り、年間収支は大幅な黒字であったし、1人当たりの訪問回数も全国平均を上回った。労働生産性は、法人内の全サービスでも突出している。近年、市内では訪問看護事業所の開設や廃止が相次いでおり、競争が激化している。そのような環境において、このような業績を収めることができたのは、初期メンバーの努力の賜物である。今後は、法人の経営基盤を支える重要な部門として更に強化していきたい。

【表⑩-4 訪問看護ステーションともの家 延べ訪問回数】

	医療保険	介護保険	自費	合計
年間回数	3,848	78	50	3,976
月間回数	320.7	6.5	4.2	331.3

	ともの家	全国平均
1か月あたり延べ訪問回数	331.3	375.5
常勤換算職員数	3.4人	7.0人
常勤換算職員1人当たり訪問回数	97.4	53.5

## 4) その他公益事業の利用状況

入居率は表⑩-5のとおりとなった。入居率が改善した。高齢者向け住宅の競合激化は一時期に比べ落ち着いたが、その供給量の多さから、利用者の獲得競争になっているのは変わらない。しかし、生活保護や身寄りのない独居高齢者など、住宅確保要配慮者の受け皿はまだ多くないのが現状である。そういった社会的弱者の受け皿として、各住宅を活用していきたい。そのためには、単独での黒字化が難しいという課題を解決しなければならないので、法人内サービスの利用率も高めていきたい。

表⑩-5 公益事業入居状況

	入居率		
	令和4年度	令和3年度	前期比
シニア住宅パレット	91.7%	96.8%	-5.1%
高齢者住宅	99.1%	86.7%	12.4%
第二ともの家	100.0%	91.2%	8.8%

## V 各事業所から

各事業所 事業報告参照

## VI その他

## 1) ご協力いただいた方々(敬称略)

## 【寄付】

宇都宮理、宮内みどり、吉村健二

計 260,000円

河野紘子(お菓子等)、土井由香(お菓子等)、吉村健二(野菜等)、松本勢子(野菜等)、樹園・野本(果物・野菜)、片山哲也(お菓子等)、片山貴子(お菓子等)、宇都宮時子(お菓子等)、大野トモ子(砂糖)、村上まさえ(お菓子等)、井谷昭(果物)、渡邊公三(野菜)、黒川崇文(お菓子)、河野自由美(花束)、株式会社真木(タオル)

## 【ボランティア】

松下章子(生け花)、越智愛(ピアノ)